

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和別所小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)情報活用能力(令和8年度 浦和別所小 デザインマップより) ・多様な情報収集の方法を身に付け、適切な収集方法を選択する資質・能力 ・文章や資料を正しく読み取り、情報やデータを整理し傾向を把握する資質・能力 (2)表現力(令和8年度 浦和別所小 デザインマップより) ・目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	各教科指導において、以下の3つの視点を持ち、単元の中で指導・支援を行う。 ・目的・条件に応じてWeb等を活用して情報を収集する。(しのため、国語、社会 等) ・図表やグラフなどを活用して分析する。(算数・理科・家庭 等) ・相手に伝わるよう表現方法(ポスター、動画資料 等)を考えたり、効果的にまとめたりしてプレゼンテーションを行う。(国語・GS・音楽・図画工作 等)

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	はじめに、本校の児童は、国語・算数のすべての問題において、無解答率が全国に比べて低いことが分かった。次に、国語の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」の問題では、全国の正答率33.5%を上回り、本校の正答率は51.6%であった。誤答となった児童の中にも、「自分が考えたことを書く」ことができる児童が29.5%いることが分かった。さらに、算数の「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」の問題では、全国の正答率17.9%を上回り、本校の正答率は43.2%であった。しかし、算数の全ての問題の中では、正答率が最も低く、課題が見られた。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、「自分が考えたことを書く」ことができるが、誤答となった児童が29.5%いる。その児童は、求められている条件に合った文章が書けていないため、誤答となった。求められている条件を正しく読み取ること、書いた文章が条件に合っているか自ら確認することができること、書いて伝える力がさらに高められると考えられる。算数では、誤答を分析すると、二次元のうち、片方の数値を正しく読み取ることができている児童が多かったため、二次元の表のような視点から1つでない資料を読み取る手順を定着させる必要性を感じた。そして、資料から読み取ったことを整理して表現することを身に付けさせ、正確に情報を収集できるように指導する。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
	B
↓	
学力向上策の 見直し	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所